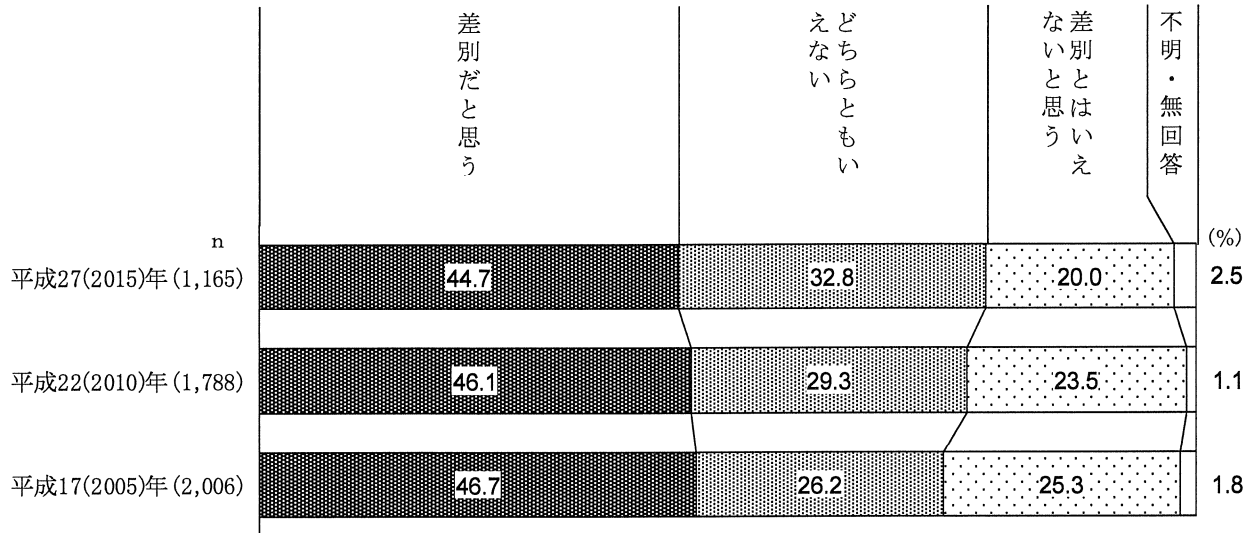


7. 性別役割分担について

問 16 子どもが成長したなどで再就職を希望する女性に対して、配偶者またはパートナーが「男は仕事、女は家庭」と反対しました。このことについて、あなたはどのように思いますか。(〇は1つ)



全体 子どもが成長したなどで再就職を希望する女性に対して、配偶者またはパートナーが「男は仕事、女は家庭」と反対したことについては、「差別だと思う」が44.7%で最も多く、次いで「どちらともいえない」(32.8%)、「差別とはいえないと思う」(20.0%)となっている。

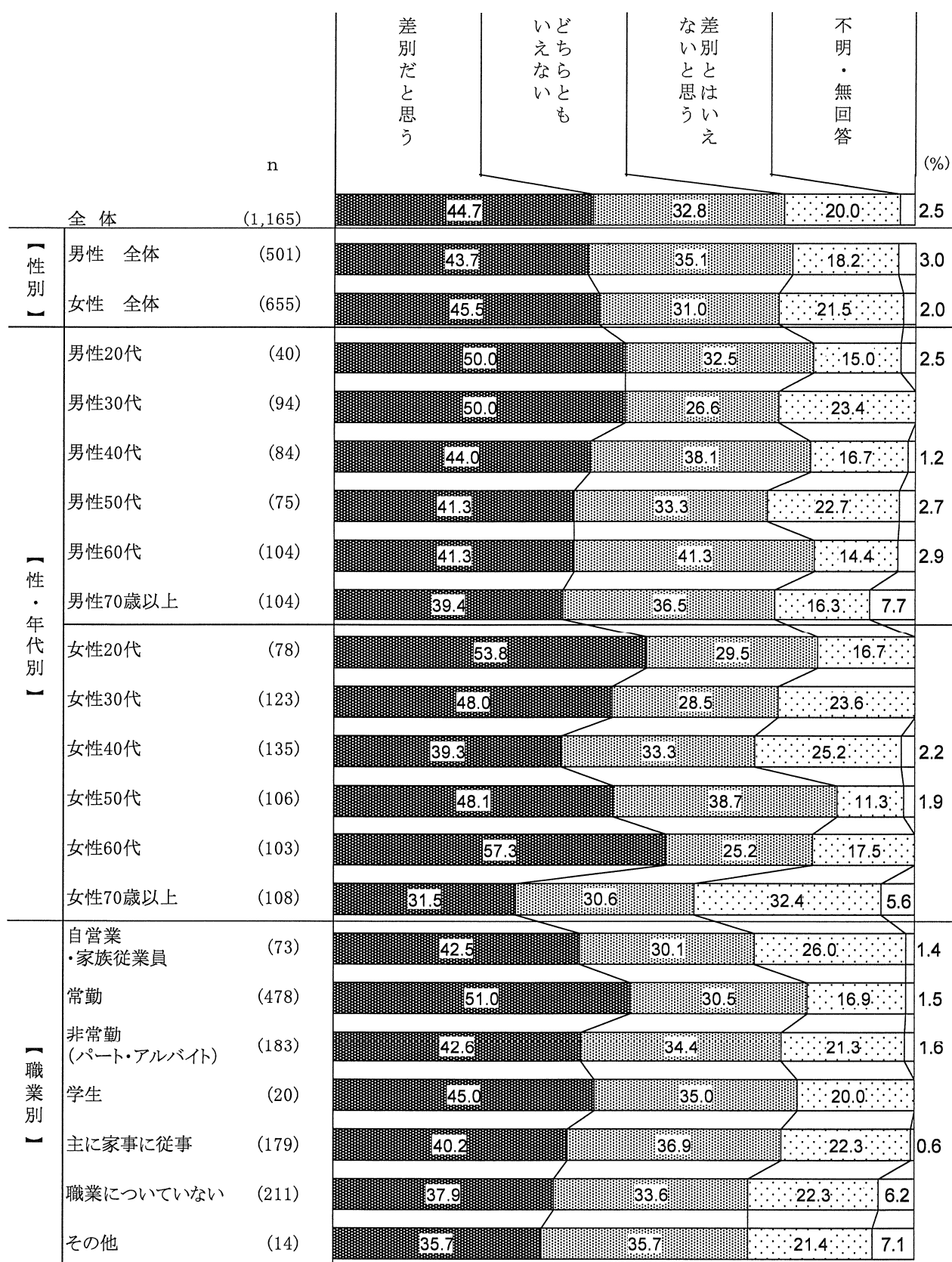
過去の調査と比較すると、「差別だと思う」は46.7%から46.1%、44.7%に、同様に「差別とはいえないと思う」も25.3%から23.5%、20.0%へと減少している。

性別 「差別だと思う」は、男性(43.7%)より女性(45.5%)のほうがやや多く、また、「差別とはいえないと思う」も男性(18.2%)より女性(21.5%)のほうがやや多くなっている。

性・年代別 「差別だと思う」は、男性20代・30代(ともに50.0%)と、女性20代・60代でそれぞれ53.8%、57.3%と、他の性・年代と比べて多くなっている。また、「差別とはいえないと思う」は、女性70歳以上で32.4%と30%を超え、多くなっている。

職業別 常勤は、「差別だと思う」が51.0%と半数を超え、他の職業と比べて最も多くなっている。

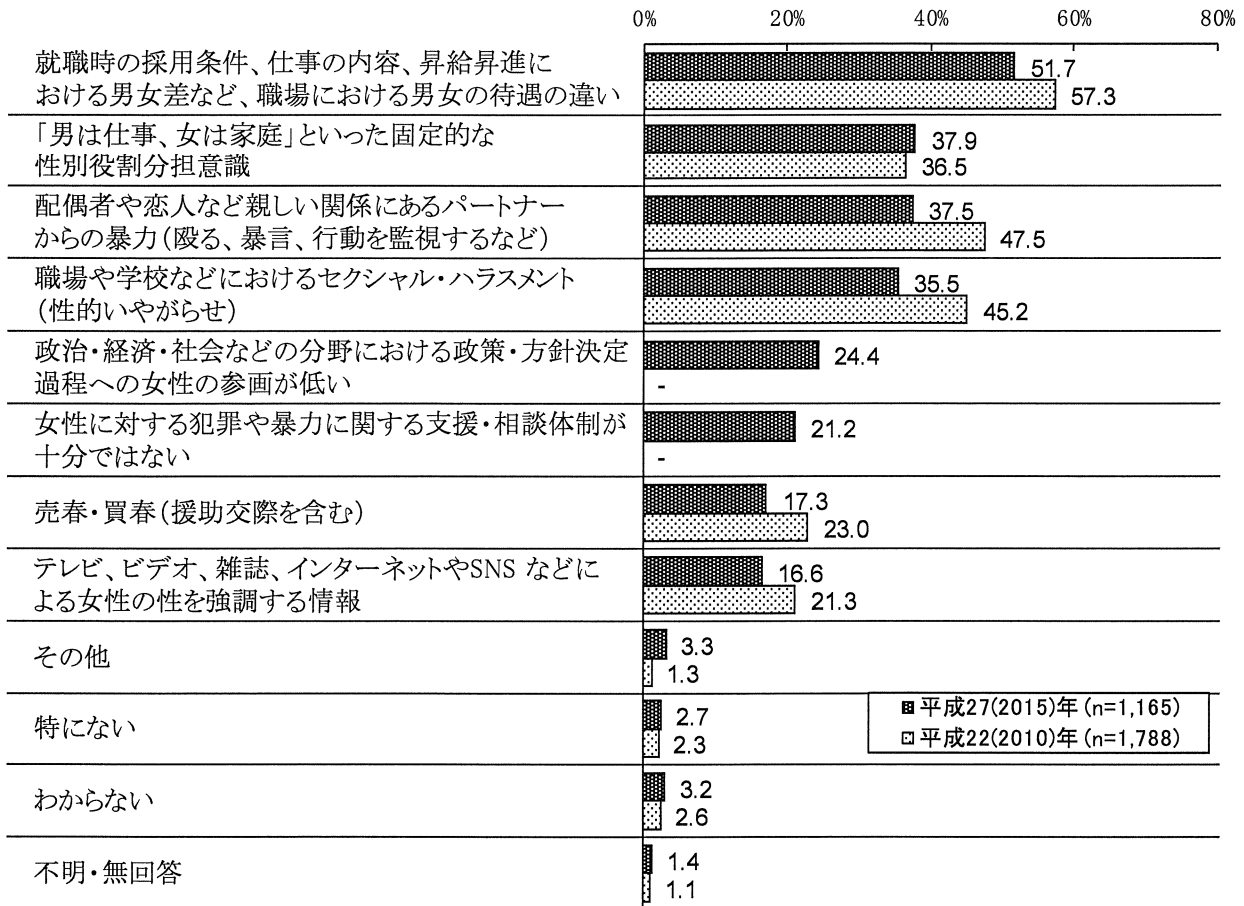
図 7-1 性別役割分担に関する考え方（性別、性・年代別、職業別）



※属性が「不明・無回答」は作図せず
 ※n数が「20未満」の属性についてはコメントせず

8. 女性の人権について

問 17 あなたが、女性の人権に関することについて、特に問題だと思うものは何ですか。
(番号は3つまで)



※平成17(2005)年では未聴取
「-」:平成22(2010)年では未聴取

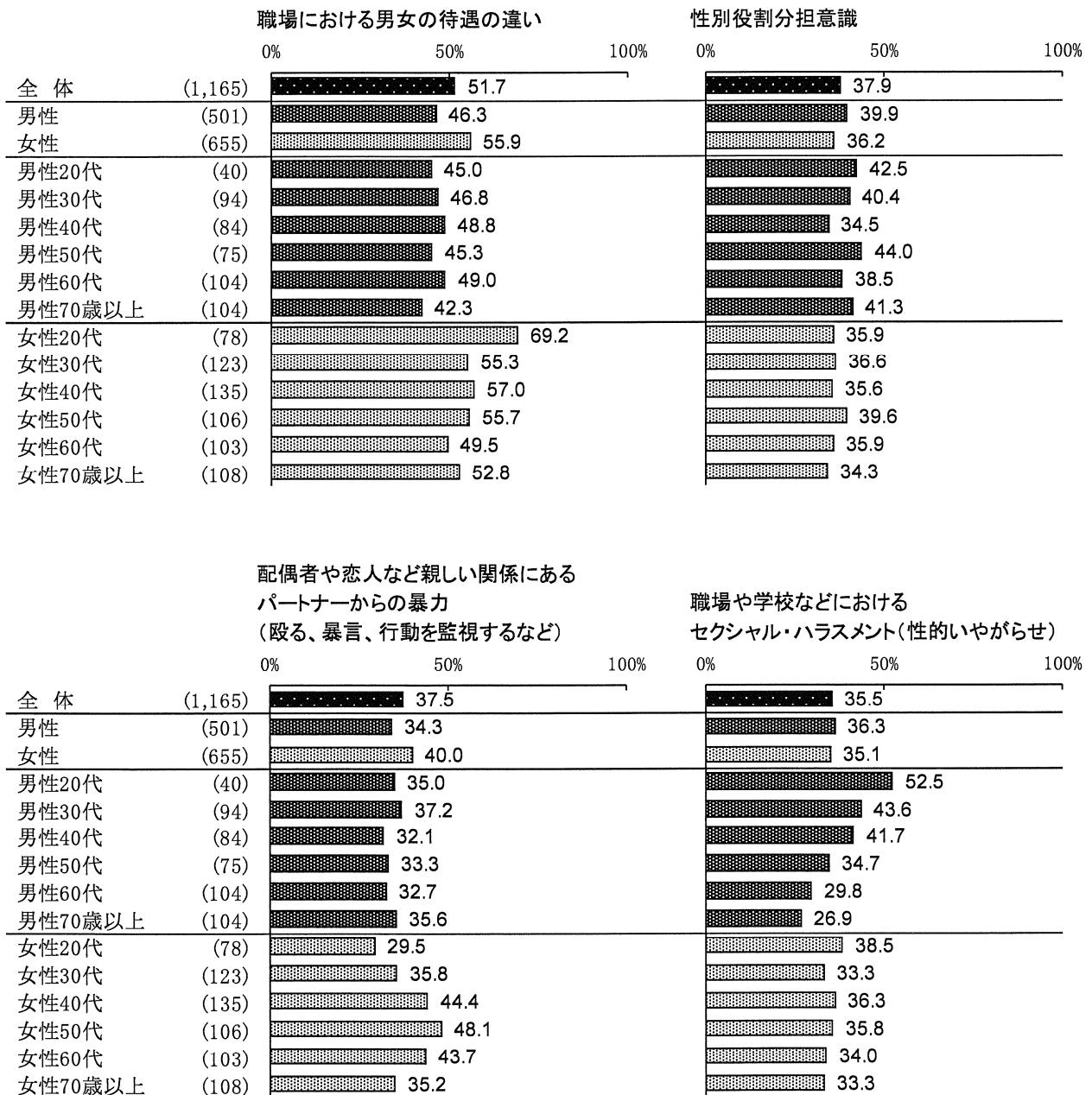
全体 女性の人権に関することについて、特に問題だと思うものは、「就職時の採用条件、仕事の内容、昇給昇進における男女差など、職場における男女の待遇の違い」が51.7%で最も多く、次いで「男は仕事、女は家庭」といった固定的な性別役割分担意識(37.9%)、「配偶者や恋人など親しい関係にあるパートナーからの暴力(殴る、暴言、行動を監視するなど)」(37.5%)、「職場や学校などにおけるセクシャル・ハラスメント(性的いやがらせ)」(35.5%)と続いている。

過去の調査と比較すると、「配偶者や恋人など親しい関係にあるパートナーからの暴力(殴る、暴言、行動を監視するなど)」が、前回平成22(2010)年の47.5%から37.5%と10ポイント減少し、「職場や学校などにおけるセクシャル・ハラスメント(性的いやがらせ)」も前回の45.2%から35.5%と9.7ポイント減少した。

性別 「就職時の採用条件、仕事の内容、昇給昇進における男女差など、職場における男女の待遇の違い」が、男性の46.3%に対して、女性は55.9%と9.6ポイント多くなっている。一方、「男は仕事、女は家庭」といった固定的な性別役割分担意識」は、女性(36.2%)より男性(39.9%)のほうがやや多くなっている。

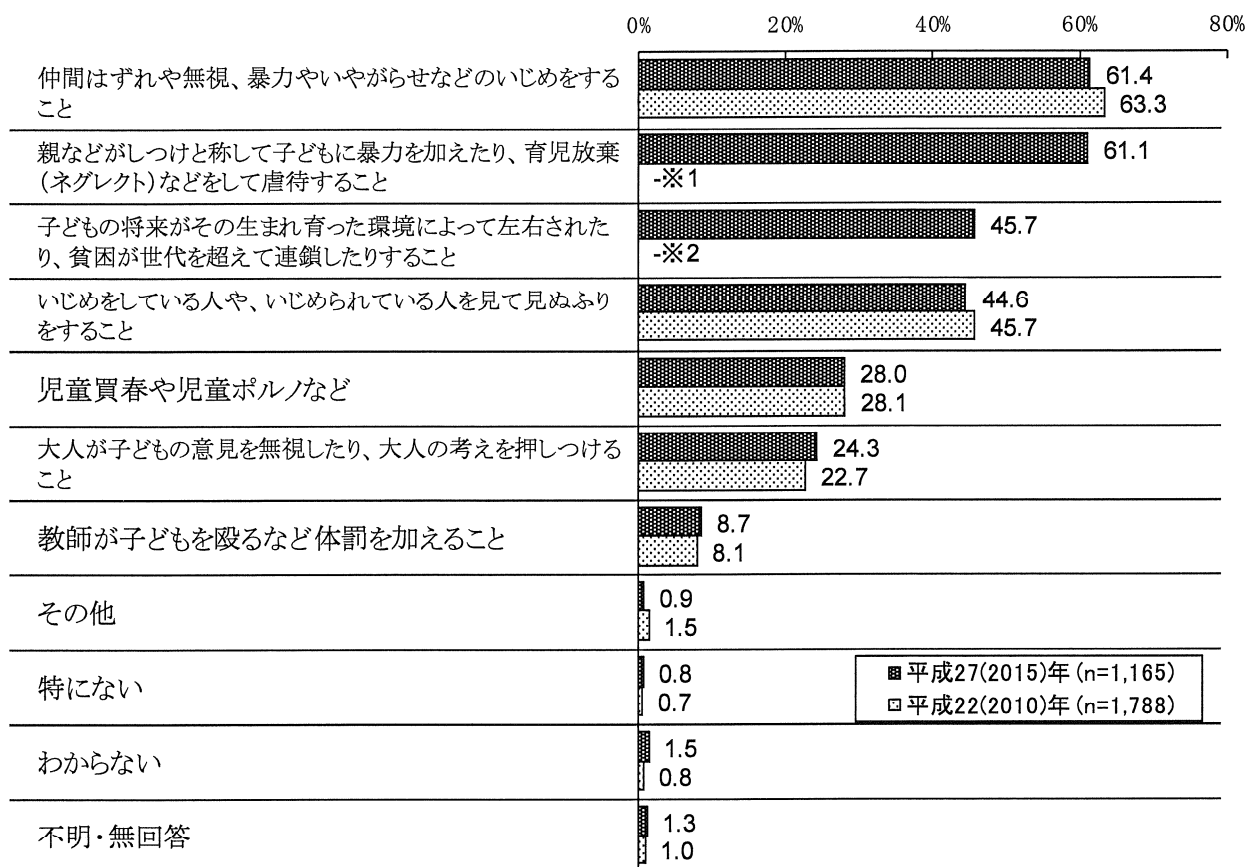
性・年代別 「就職時の採用条件、仕事の内容、昇給昇進における男女差など、職場における男女の待遇の違い」は女性20代で69.2%と、他の性・年代より目立って多くなっている。また、「職場や学校などにおけるセクシャル・ハラスメント(性的いやがらせ)」は、男性で年代が下がるにつれて多くなっており、なかでも男性20代では52.5%と半数を超えている。

図 8-1 女性の人権に関して特に問題だと思うもの【上位4位】(性別、性・年代別)



9. 子どもの人権について

問 18 あなたが、子どもの人権に関することについて、特に問題だと思うものは何ですか。
(番号は3つまで)



※平成17(2005)年では未聴取

※1:平成22(2010)年では、「暴力を加えること」と「育児放棄」を別々の選択肢として聴取

※2:平成22(2010)年では未聴取

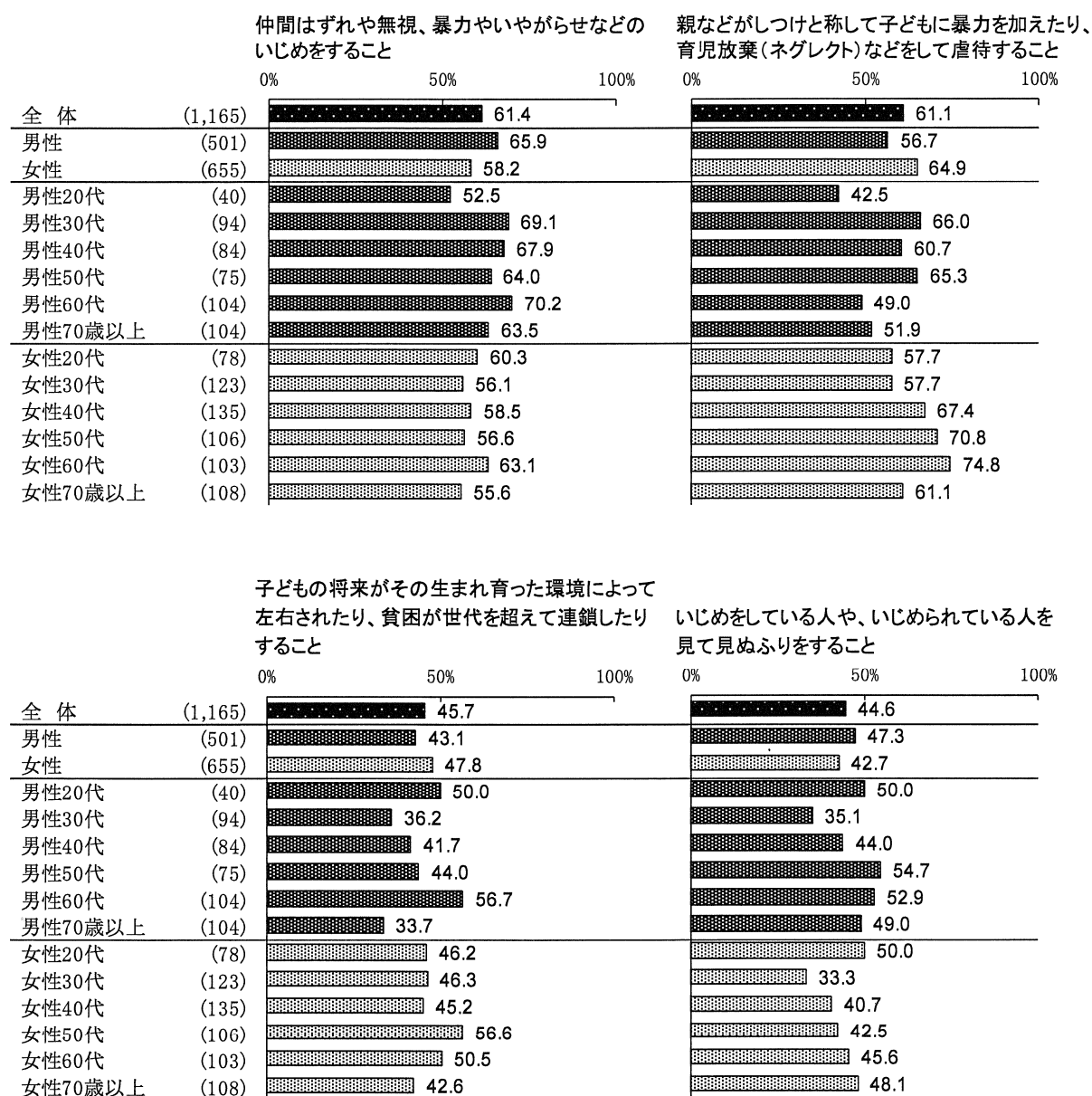
全体 子どもの人権に関することについて、特に問題だと思うものは、「仲間はずれや無視、暴力やいやがらせなどのいじめをすること」が61.4%で最も多く、次いで「親などがしつけと称して子どもに暴力を加えたり、育児放棄(ネグレクト)などをして虐待すること」(61.1%)、「子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されたり、貧困が世代を超えて連鎖したりすること」(45.7%)、「いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをする」(44.6%)と続いている。

過去の調査と比較しても、特に大きな差は見られない。

性別 「仲間はずれや無視、暴力やいやがらせなどのいじめをすること」が、女性の58.2%に対して、男性は65.9%と7.7ポイント多くなっている。一方、「親などがしつけと称して子どもに暴力を加えたり、育児放棄(ネグレクト)などをして虐待すること」は、男性(56.7%)より女性(64.9%)のほうが8.2ポイント多くなっている。

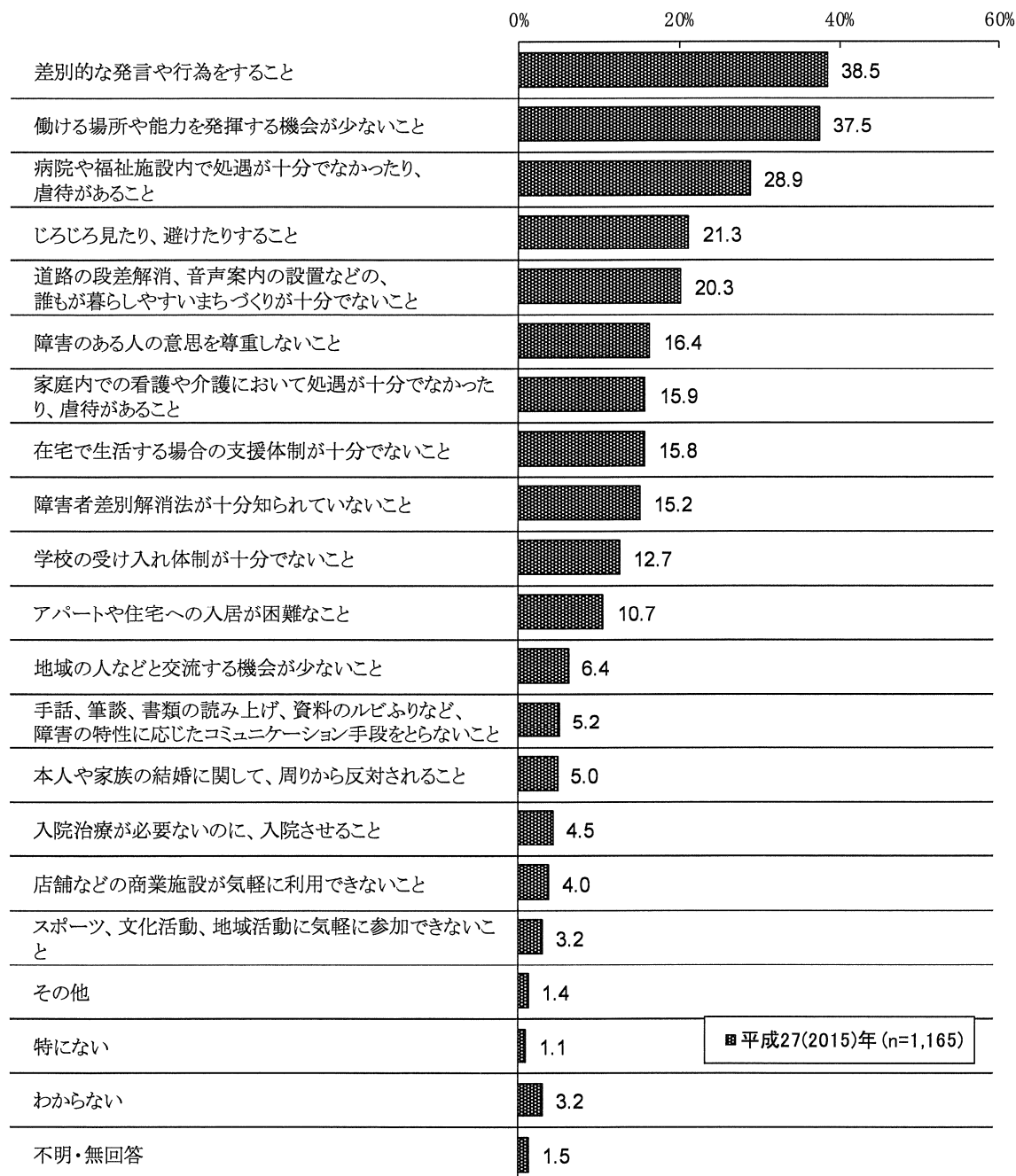
性・年代別 「仲間はずれや無視、暴力やいやがらせなどのいじめをすること」は、男性 60 代で 70.2%と最も多くなっている。また、「親などがしつけと称して子どもに暴力を加えたり、育児放棄（ネグレクト）などをして虐待すること」は、女性 50 代・60 代で 70.8%、74.8%と、他の性・年代と比べて多くなっている。

図 9-1 子どもの人権に関して特に問題だと思うもの【上位 4 位】（性別、性・年代別）



10. 障害のある人の人権について

問 19 あなたが、障害のある人に関することで、人権上特に問題があると思うのはどのようなことですか。（番号は3つまで）



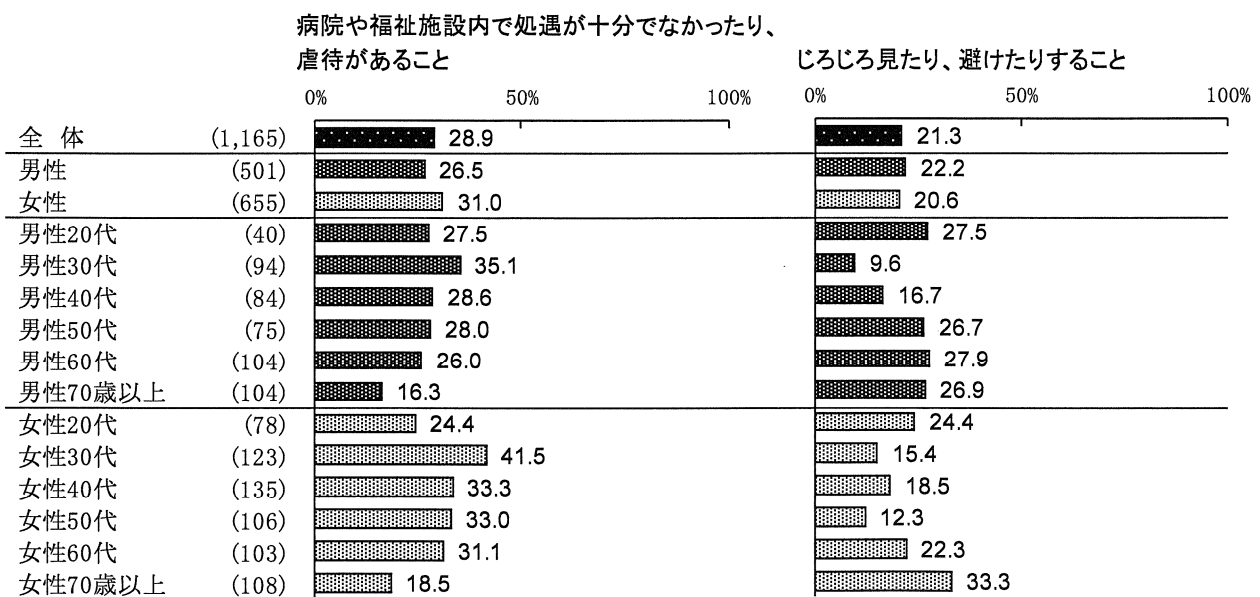
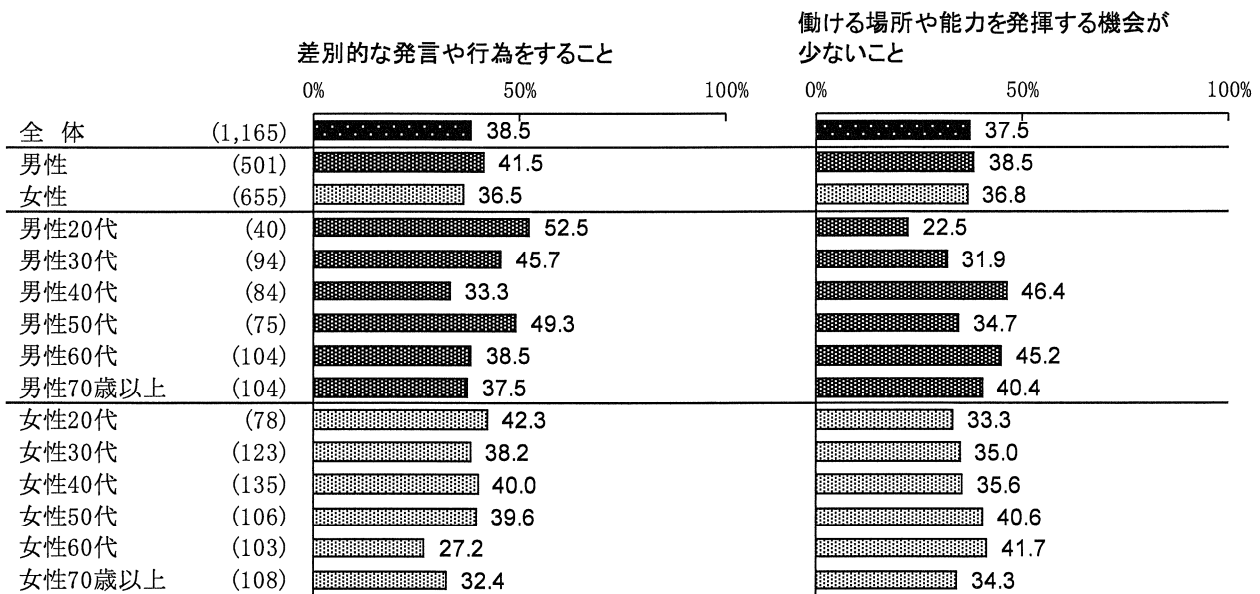
※平成17(2005)年と平成22(2010)年では未聴取

全体 障害のある人の人権について、特に問題だと思うものは、「差別的な発言や行為をすること」が 38.5%で最も多く、次いで「働ける場所や能力を発揮する機会が少ないこと」(37.5%)、「病院や福祉施設内で処遇が十分でなかったり、虐待があること」(28.9%)と続いている。

性別 「差別的な発言や行為をすること」が、女性の36.5%に対して、男性は41.5%と5.0ポイント多くなっている。

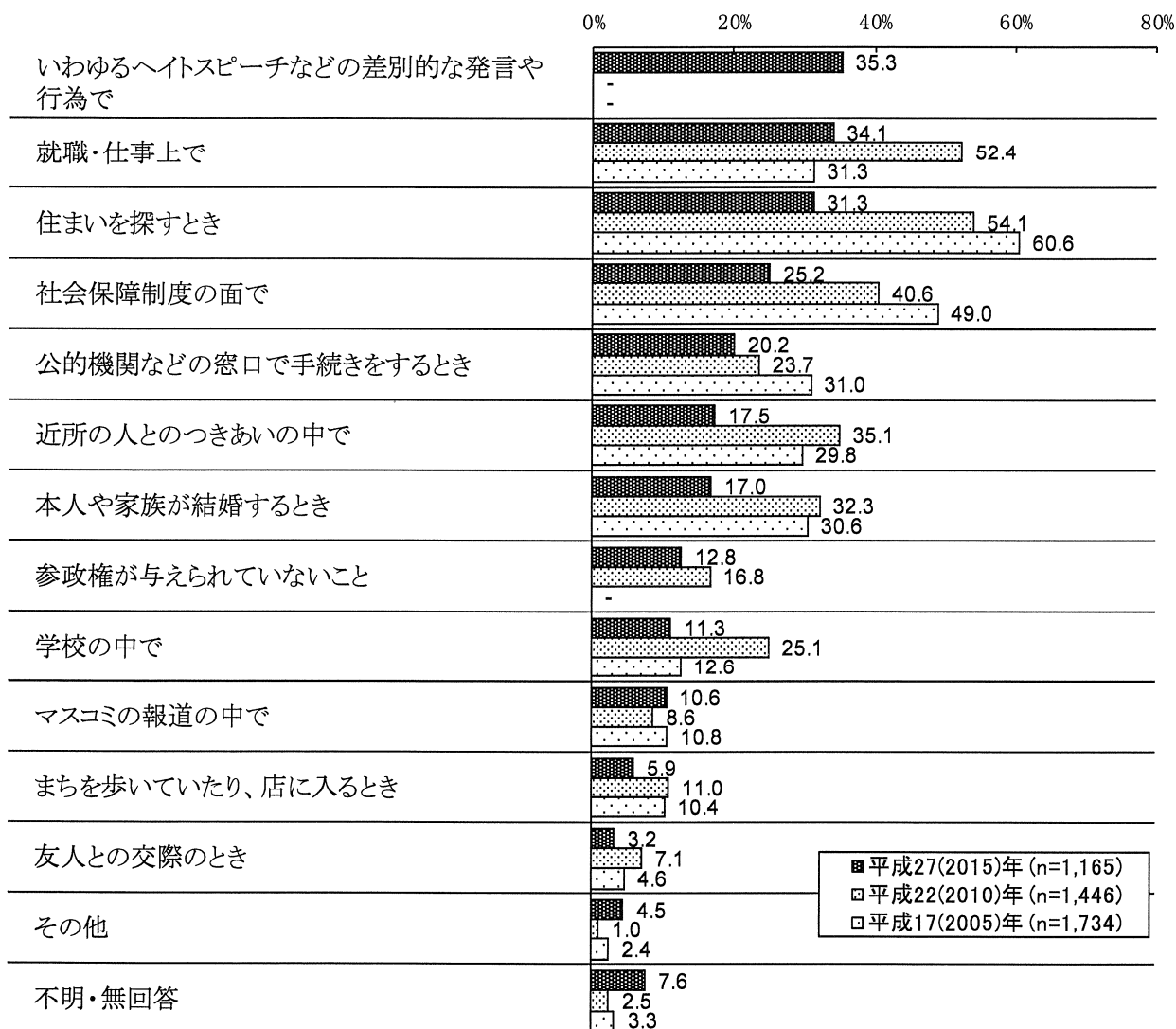
性・年代別 「差別的な発言や行為をすること」は、男性20代で52.5%と最も多くなっている。また、「働ける場所や能力を発揮する機会が少ないこと」は、男性40代・60代で46.4%、45.2%と、他の性・年代と比べて多くなっている。

図 10-1 障害のある人の人権に関して特に問題だと思うもの【上位4位】(性別、性・年代別)



1.1. 外国人市民の人権について

問 20 あなたは、外国人市民に対する偏見や差別がどのような場合にあると思いますか。
(〇はいくつでも)



※平成17(2005)年と平成22(2010)年では、「外国人市民への偏見や差別がある/あまりない」と思うを選択した回答者へのみ聴取
「-」:平成17(2005)年と平成22(2010)年では未聴取

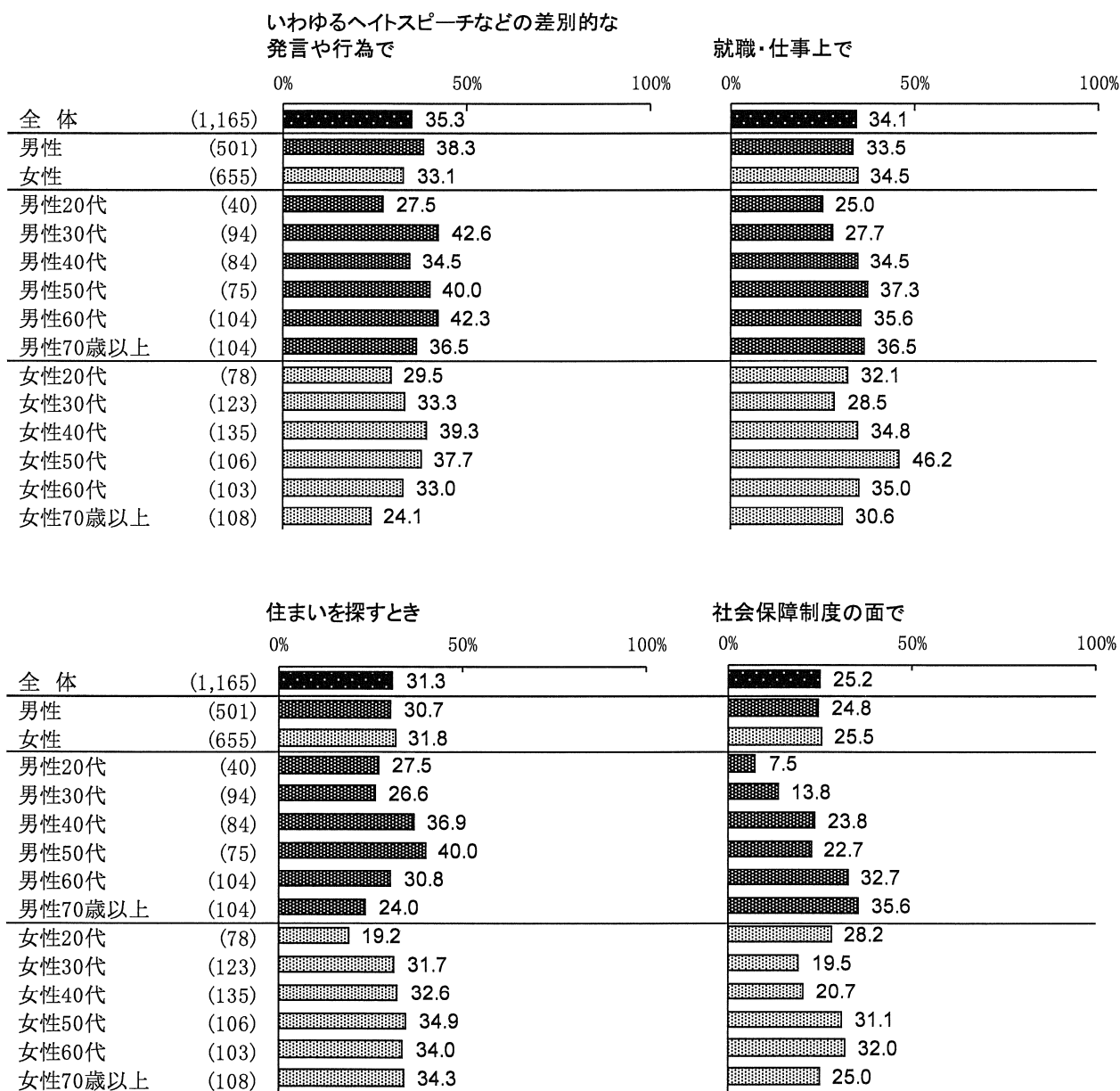
全体 外国人市民に対する偏見や差別がどのような場合にあるかについては、「いわゆるヘイトスピーチなどの差別的な発言や行為で」が35.3%で最も多く、次いで「就職・仕事上で」(34.1%)、「住まいを探すとき」(31.3%)と続いている。

過去の調査と比較すると、「就職・仕事上で」は前回平成22(2010)年の52.4%から31.4%に、「住まいを探すとき」は54.1%から31.3%に減少している。

性別 「いわゆるヘイトスピーチなどの差別的な発言や行為で」が、女性の33.1%に対して、男性は38.3%と5.2ポイント多くなっている。

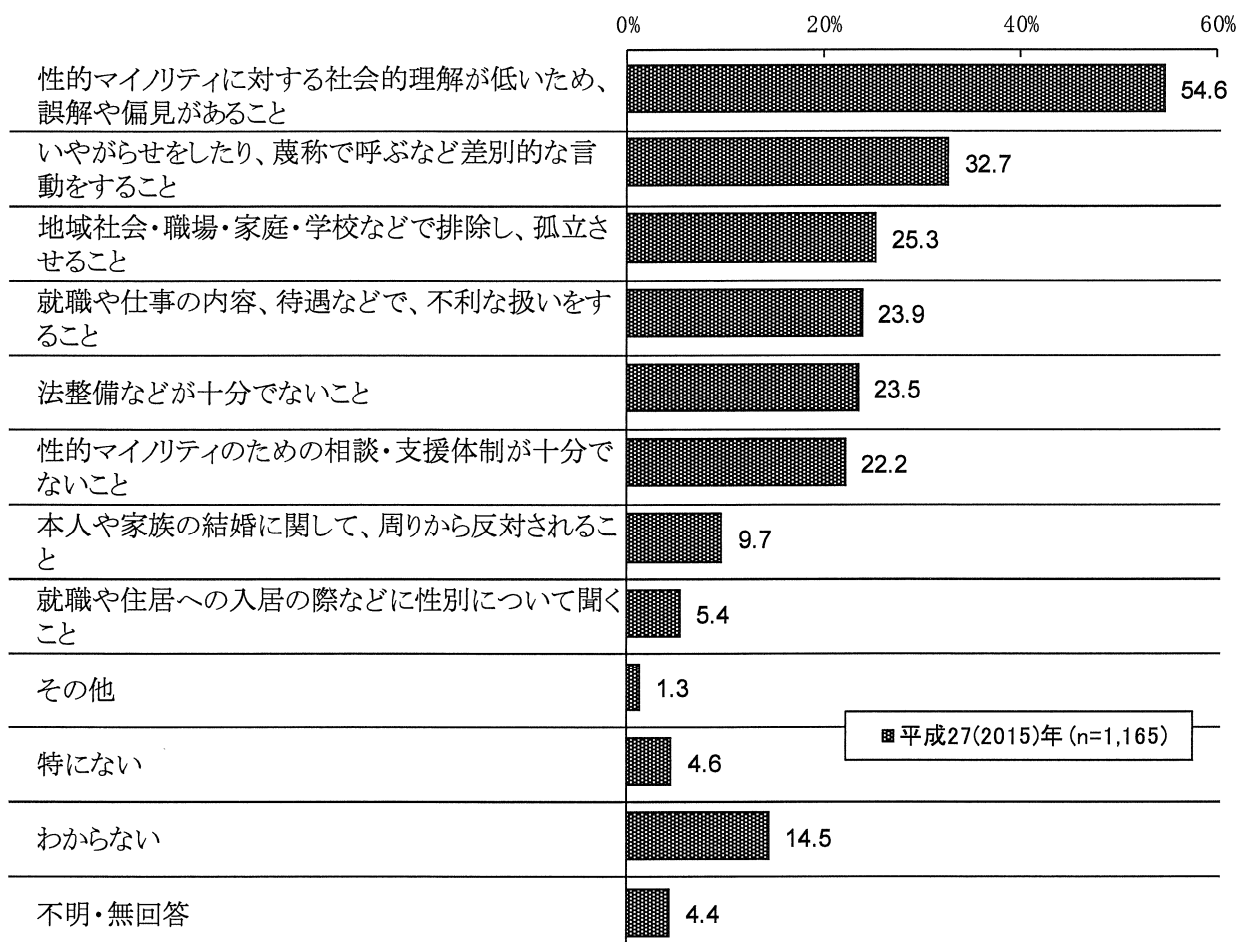
性・年代別 「いわゆるヘイトスピーチなどの差別的な発言や行為で」は、男性30代・60代で42.6%と42.3%で多くなっている。「就職・仕事上で」は、女性50代で46.2%と他の性・年代と比べて特に多くなっている。また、「社会保障制度の面で」は、男性において年代が上がるにつれて増加している。

図 11-1 外国人市民への偏見や差別がどのような場合にあるか【上位4位】(性別、性・年代別)



12. 性的マイノリティの人権について

問 21 あなたが、性的マイノリティの人権に関することについて、特に問題だと思うものは何ですか。(番号は3つまで)



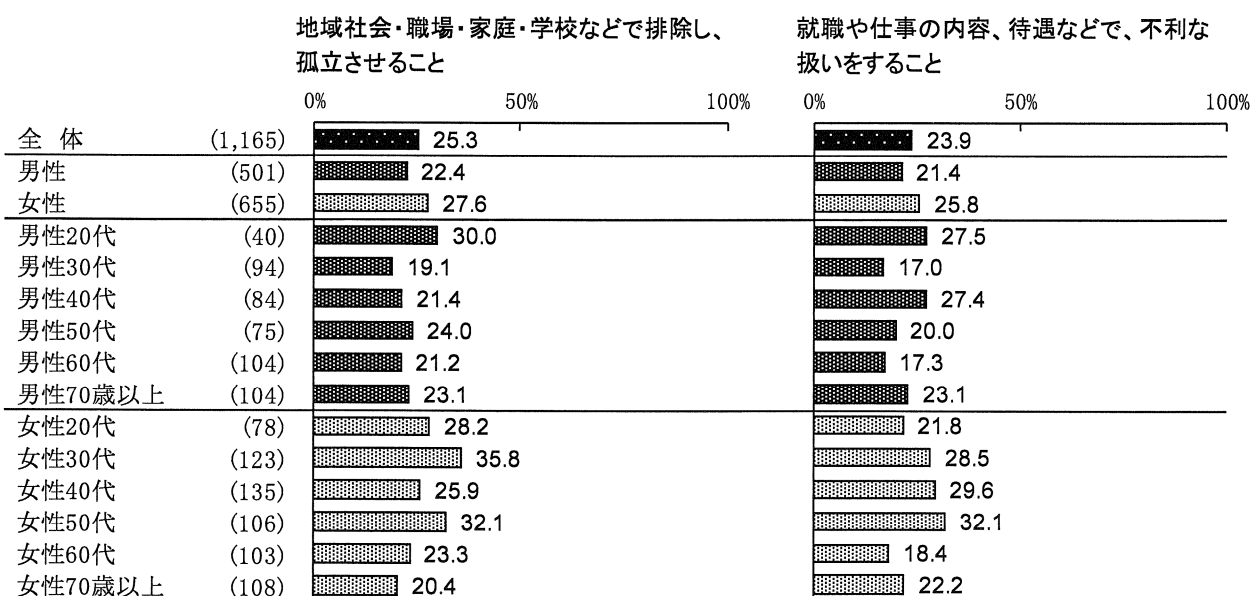
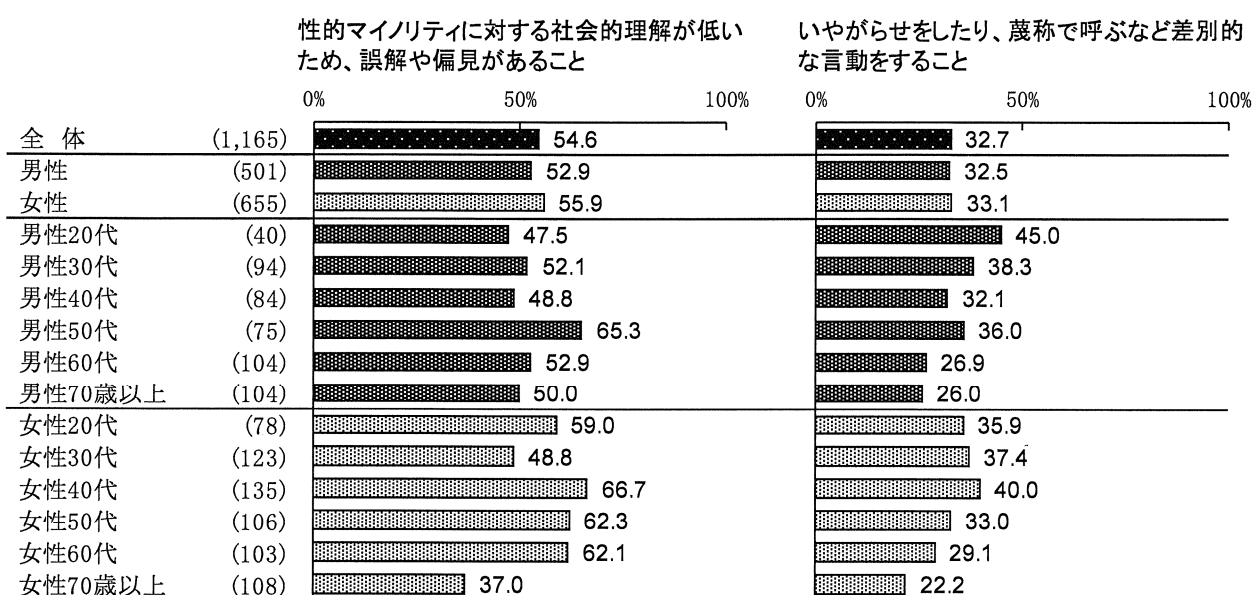
※平成17(2005)年と平成22(2010)年では未聴取

全体 性的マイノリティの人権について、特に問題だと思うものは、「性的マイノリティに対する社会的理解が低いため、誤解や偏見があること」が54.6%で最も多く、次いで「いやがらせをしたり、蔑称で呼ぶなど差別的な言動をすること」(32.7%)、「地域社会・職場・家庭・学校などで排除し、孤立させること」(25.3%)と続いている。

性別 「地域社会・職場・家庭・学校などで排除し、孤立させること」が、男性の22.4%に対して、女性は27.6%と5.2ポイント多くなっている。

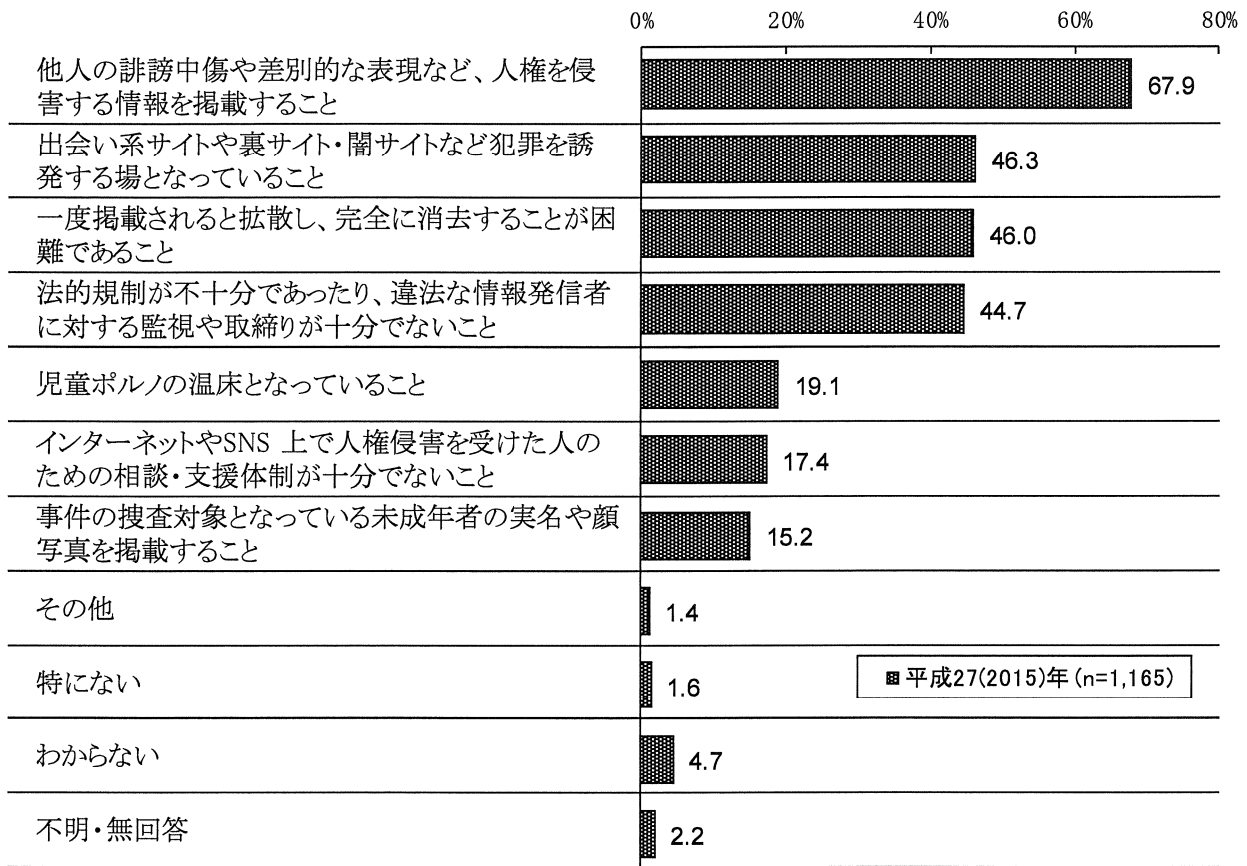
性・年代別 「性的マイノリティに対する社会的理解が低いため、誤解や偏見があること」は、男性50代で65.3%、女性40代・50代・60代でそれぞれ66.7%、62.3%、62.1%と、60%を超え、多くなっている。また、「いやがらせをしたり、蔑称で呼ぶなど差別的な言動をすること」は、男性20代で45.0%、女性40代で40.0%と、他の性・年代と比べて多くなっている。

図 12-1 性的マイノリティの人権に関して特に問題だと思うもの【上位4位】
(性別、性・年代別)



1.3. インターネット上における人権について

問 22 あなたが、インターネットに関することについて、人権上特に問題だと思うものは何ですか。
(番号は3つまで)



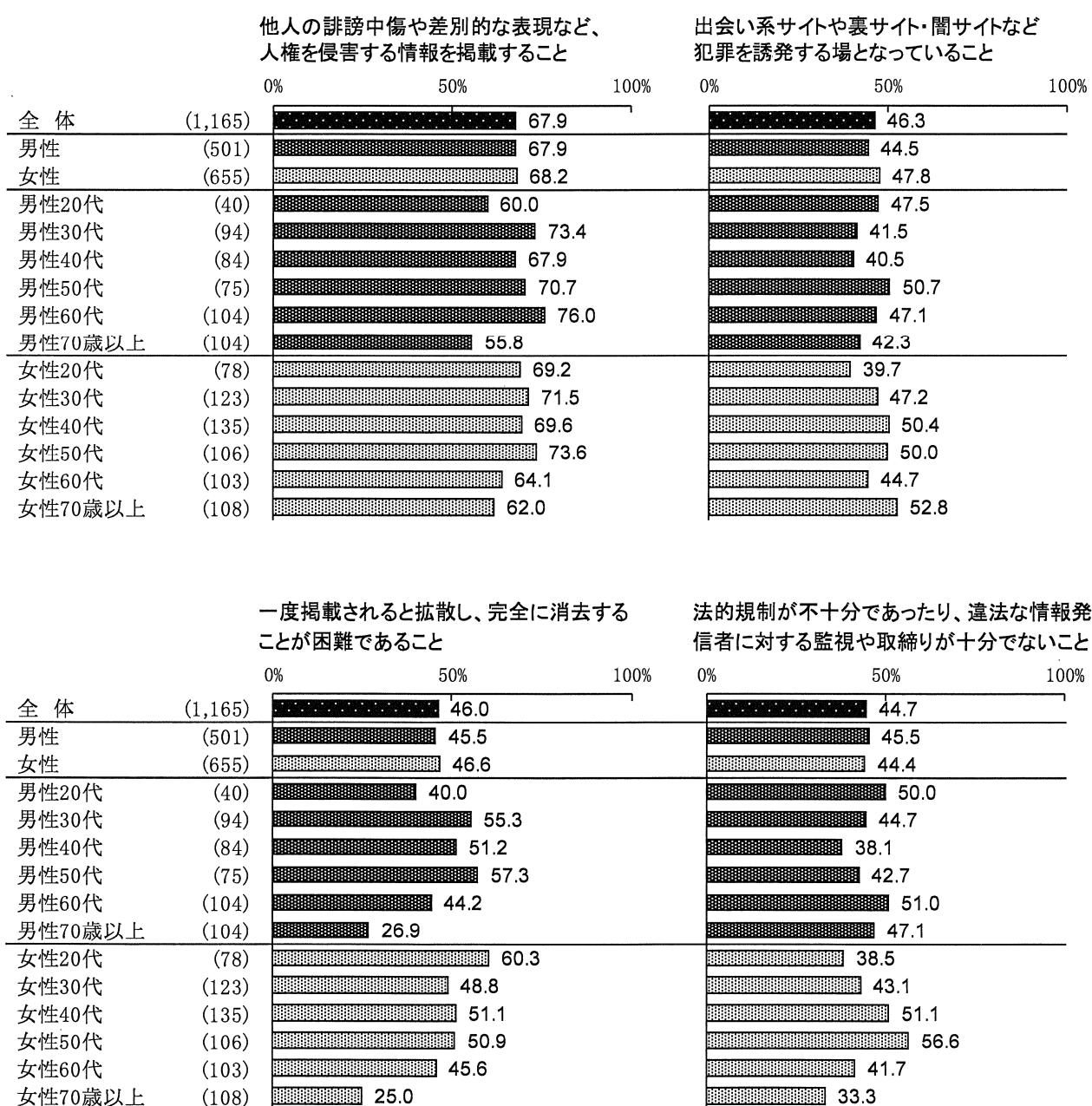
※平成17(2005)年と平成22(2010)年では未聴取

全体 インターネット上における人権について、特に問題だと思うものは、「他人の誹謗中傷や差別的な表現など、人権を侵害する情報を掲載すること」が 67.9%で最も多く、次いで「出会い系サイトや裏サイト・闇サイトなど犯罪を誘発する場となっていること」(46.3%)、「一度掲載されると拡散し、完全に消去することが困難であること」(46.0%)、「法的規制が不十分であったり、違法な情報発信者に対する監視や取締りが十分でないこと」(44.7%)と続いている。

性別 「出会い系サイトや裏サイト・闇サイトなど犯罪を誘発する場となっていること」が、男性の 44.5%に対して、女性は 47.8%とやや多くなっている。

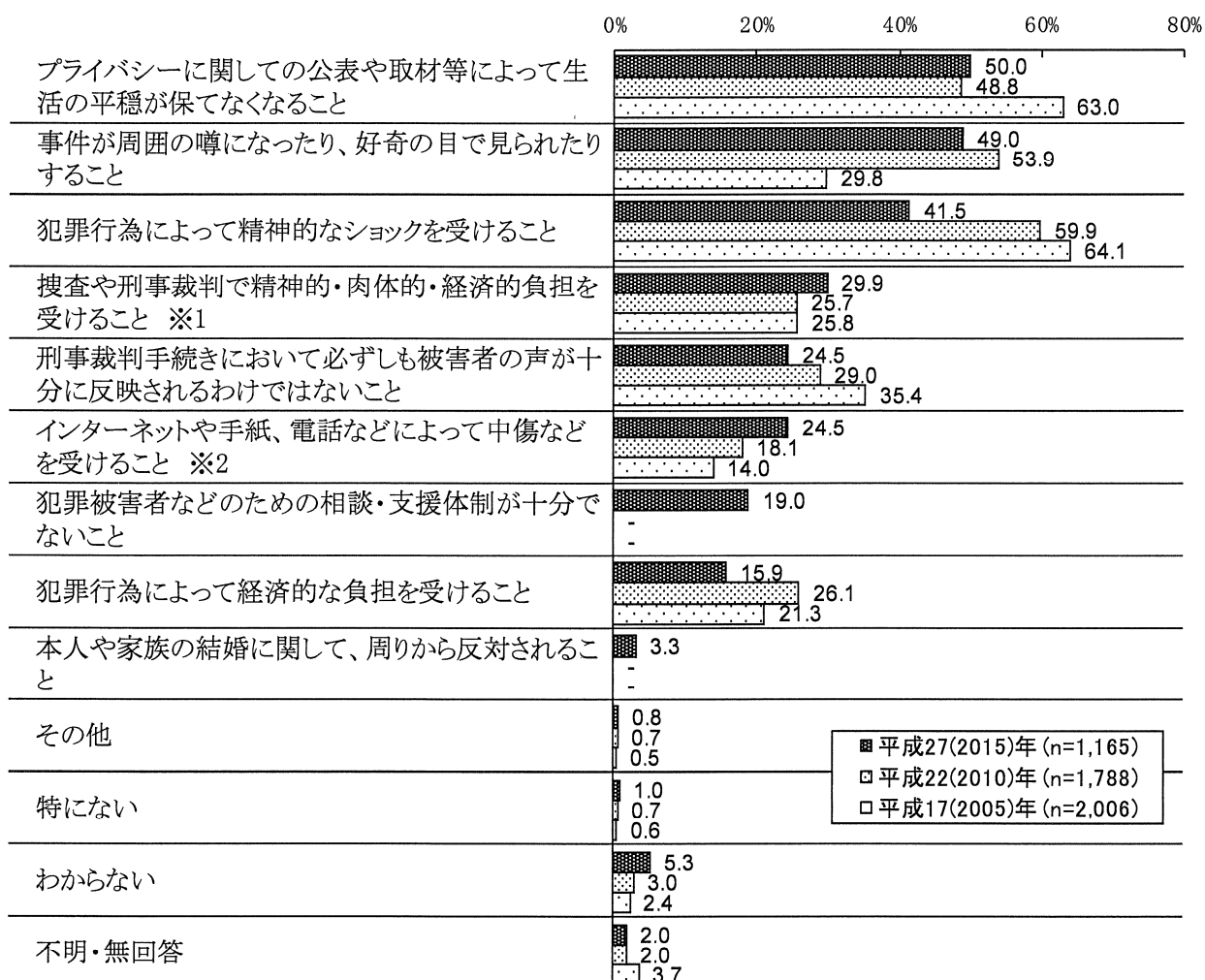
性・年代別 「他人の誹謗中傷や差別的な表現など、人権を侵害する情報を掲載すること」は、男性 30 代・50 代・60 代でそれぞれ 73.4%、70.7%、76.0%、女性 30 代・50 代で 71.5%、73.6%と、70%を超え、多くなっている。また、「一度掲載されると拡散し、完全に消去することが困難であること」は、女性 20 代で 60.3%と、他の性・年代と比べて最も多くなっている。

図 13-1 インターネット上における人権に関して特に問題だと思うもの【上位 4 位】
(性別、性・年代別)



1 4. 犯罪被害者などの人権について

問 23 あなたが、犯罪被害者などの人権に関することについて、特に問題だと思うものは何ですか。
(番号は3つまで)



「-」:平成17(2005)年と平成22(2010)年では、未聴取

※1:平成17(2005)年と平成22(2010)年では、「捜査や刑事裁判において精神的負担を受けること」として聴取

※2:平成17(2005)年と平成22(2010)年では、「手紙や電話などによって中傷などを受けること」として聴取

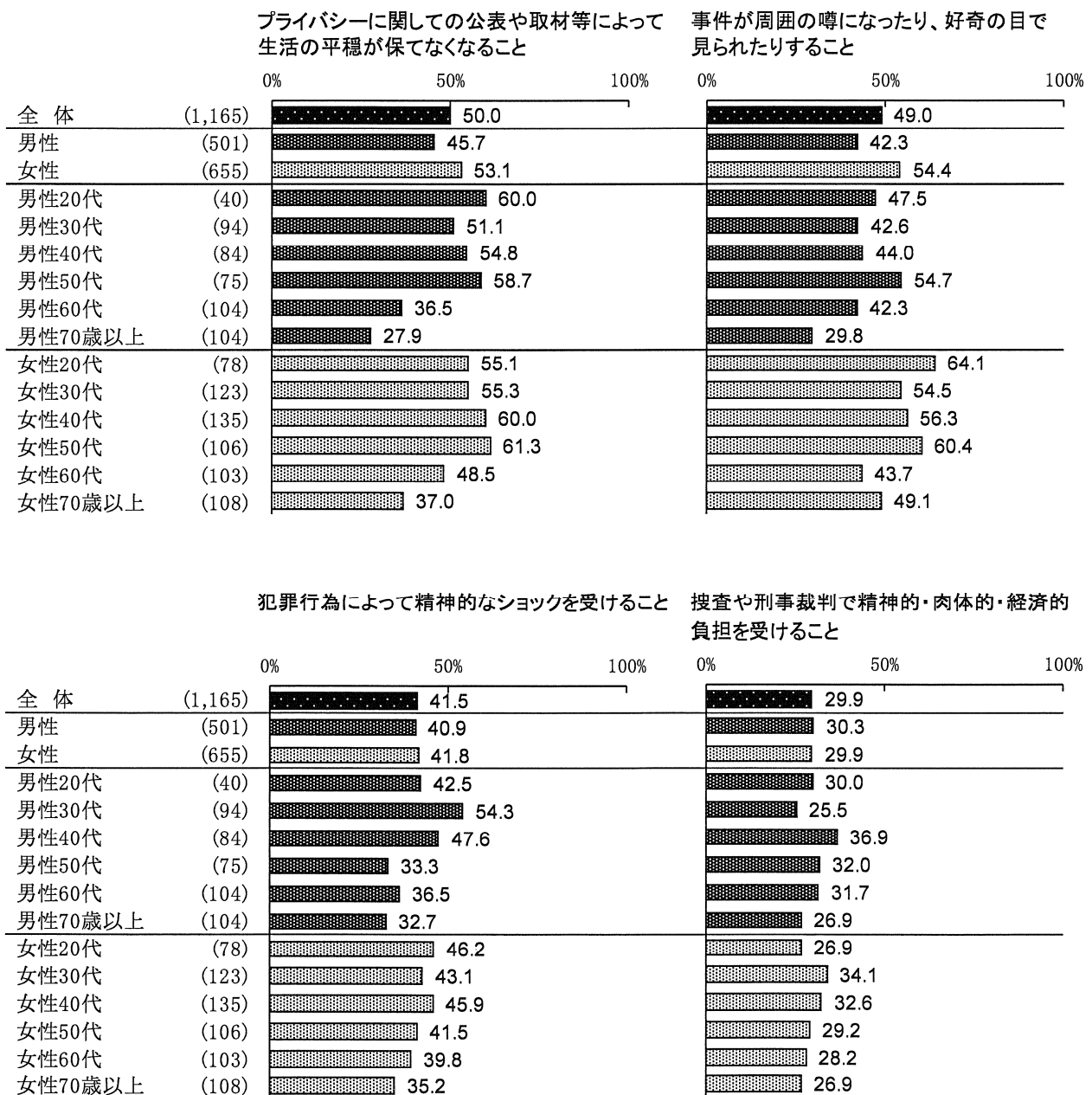
全体 犯罪被害者などの人権について、特に問題だと思うものは、「プライバシーに関しての公表や取材等によって生活の平穏が保てなくなること」が50.0%で最も多く、次いで「事件が周囲の噂になったり、好奇の目で見られたりすること」(49.0%)、「犯罪行為によって精神的なショックを受けること」(41.5%)と続いている。

過去の調査と比較すると、「犯罪行為によって精神的なショックを受けること」は、64.1%から59.9%、41.5%と減少しているが、「インターネットや手紙、電話などによって中傷などを受けること」は、14.1%から18.1%、24.5%と増加している。

性別 「プライバシーに関しての公表や取材等によって生活の平穩が保てなくなること」が、男性の45.7%に対して、女性は53.1%と7.4ポイント多くなっている。また、「事件が周囲の噂になったり、好奇の目で見られたりすること」も男性の42.3%に対して、女性は54.4%と12.1ポイント多くなっている。

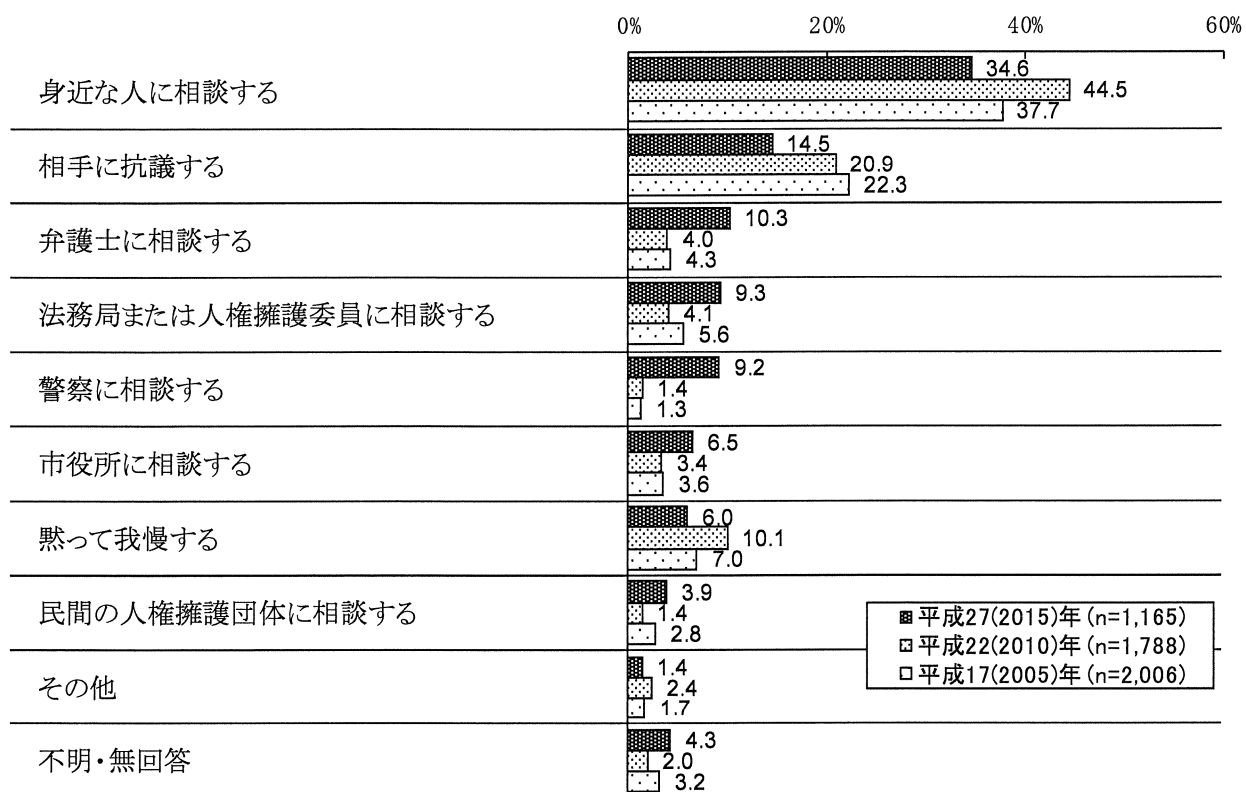
性・年代別 「プライバシーに関しての公表や取材等によって生活の平穩が保てなくなること」は、男性20代で60.0%、女性40代・50代で60.0%、61.3%と多く、「事件が周囲の噂になったり、好奇の目で見られたりすること」は、女性20代・50代で64.1%、60.4%と他の性・年代と比べて多い。また、「犯罪行為によって精神的なショックを受けること」は、男性30代で54.3%と他の性・年代と比べて多くなっている。

図 14-1 犯罪被害者などの人権に関して特に問題だと思うもの【上位4位】(性別、性・年代別)



15. 人権を侵害されたときの最初の対応について

問 24 もし、あなた自身やご家族の人権が侵害された場合、あなたはまず最初にどのような対応を取りますか。(〇は1つ)



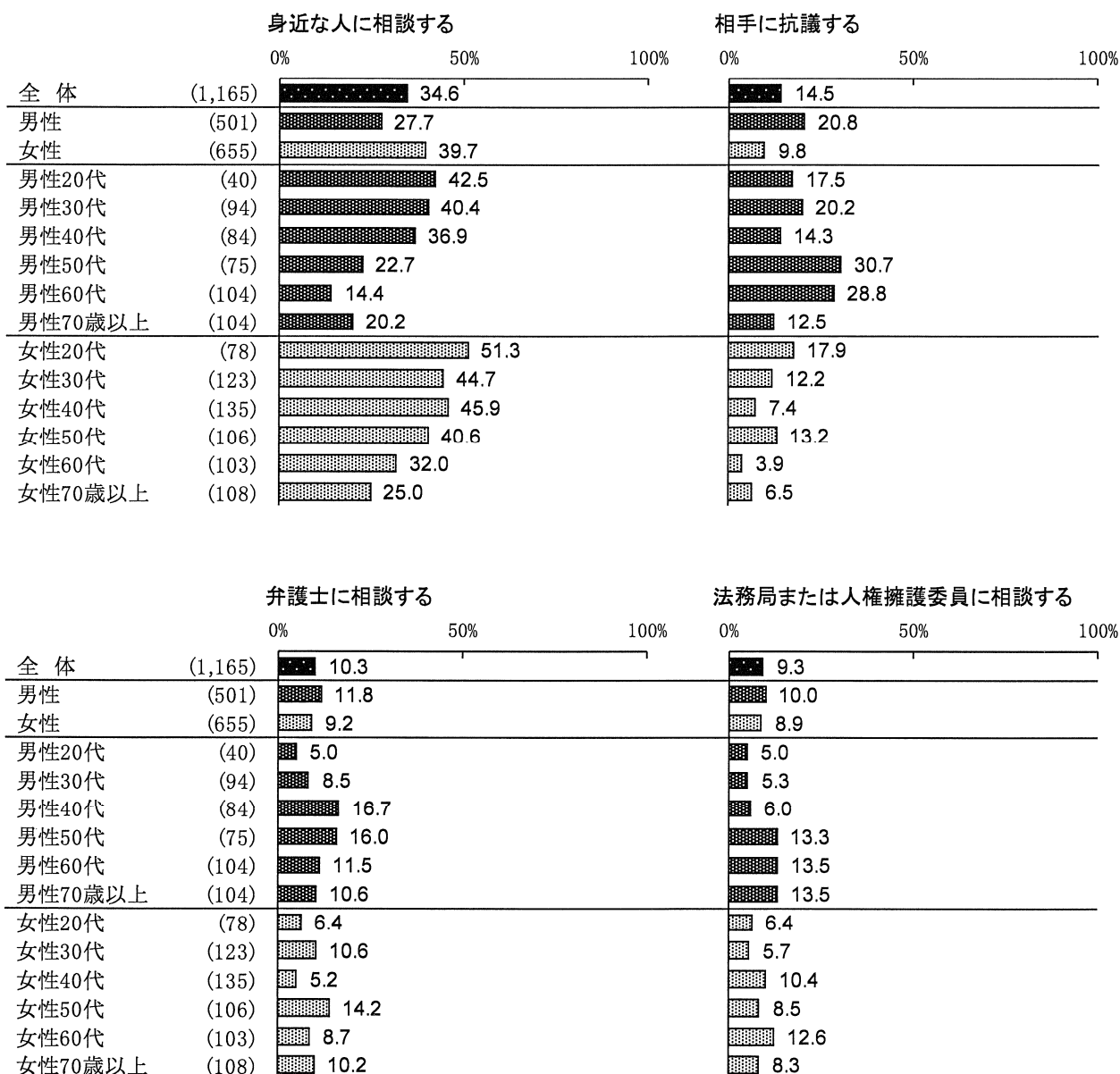
全体 自分自身や家族の人権が侵害された際にまず最初にとる対応は、「身近な人に相談する」が 34.6%で最も多く、次いで「相手に抗議する」(14.5%)、「弁護士に相談する」(10.3%)と続いている。

過去の調査と比較すると、「身近な人に相談する」は、前回平成 22 (2010) 年の 44.5% から 34.6%に減少し、「相手に抗議する」も 22.3%から 20.9%、14.5%と減少している。一方、「弁護士に相談する」は、前回の 4.0%から 10.3%に増加し、「法務局または人権擁護委員に相談する」は、前回の 4.1%から 9.3%に、「警察に相談する」も前回の 1.3%から 9.2%へと増加している。

性別 「身近な人に相談する」が、男性の 27.7%に対して、女性は 39.7%と 12 ポイント多くなっている。一方、「相手に抗議する」は、女性の 9.8%に対して、男性は 20.8%と 11 ポイント多くなっている。

性・年代別 「身近な人に相談する」は、男女とも年代が下がるにつれて多くなる傾向が見られ、特に女性 20 代では 51.3%と、他の性・年代と比べて最も多い。また、「相手に抗議する」は、男性 50 代・60 代で 30.7%、28.8%と、他の性・年代と比べて多くなっている。

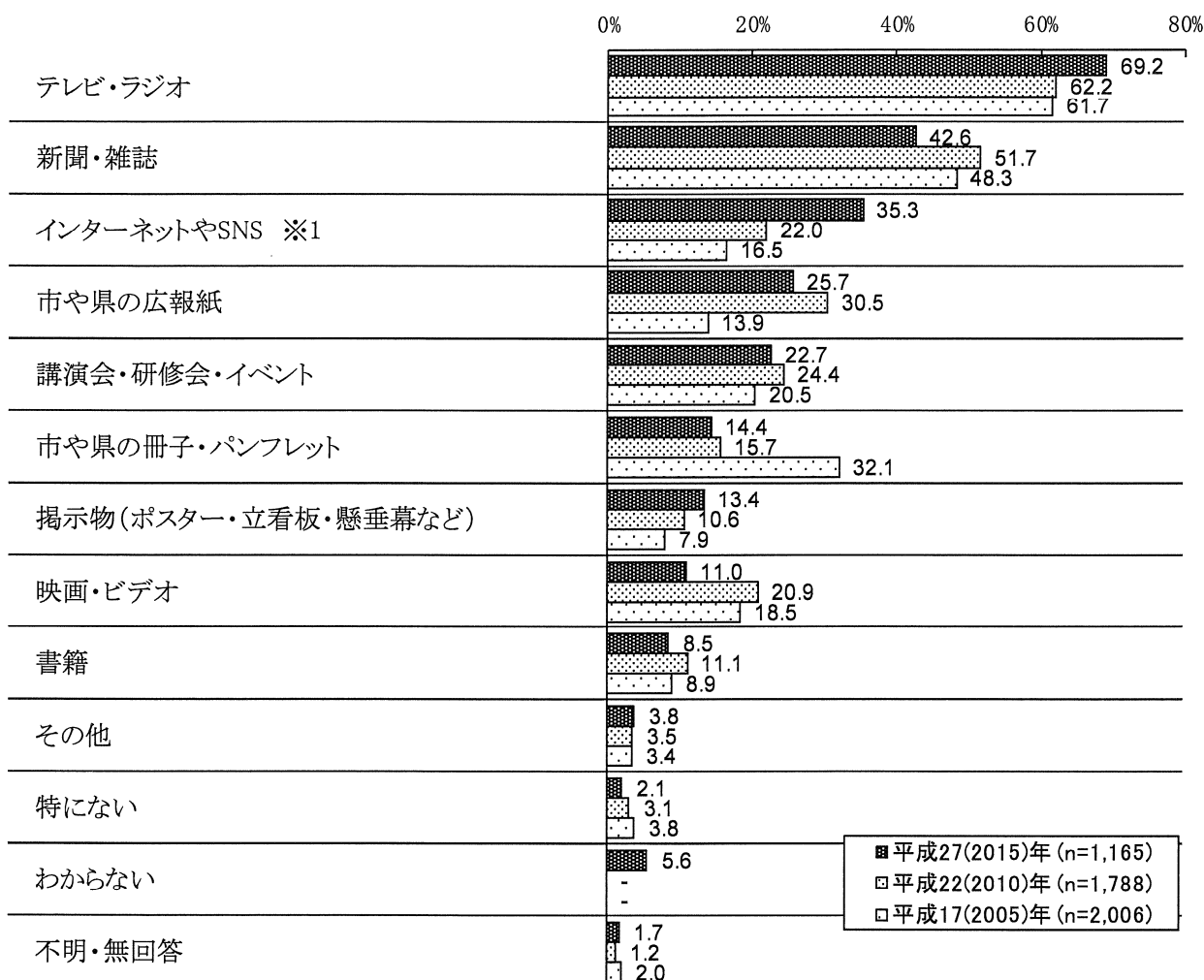
図 15-1 人権を侵害されたときの最初の対応【上位 4 位】(性別、性・年代別)



16. 人権への理解と相談窓口について

(1) 人権への理解に必要なだと思う方法

問 25 あなたは、人権について理解を深める上で、どのような方法が役立つと思いますか。
(番号は3つまで)



「-」:平成17(2005)年と平成22(2010)年では未聴取

※1:平成17(2005)年と平成22(2010)年では、「インターネット」として聴取

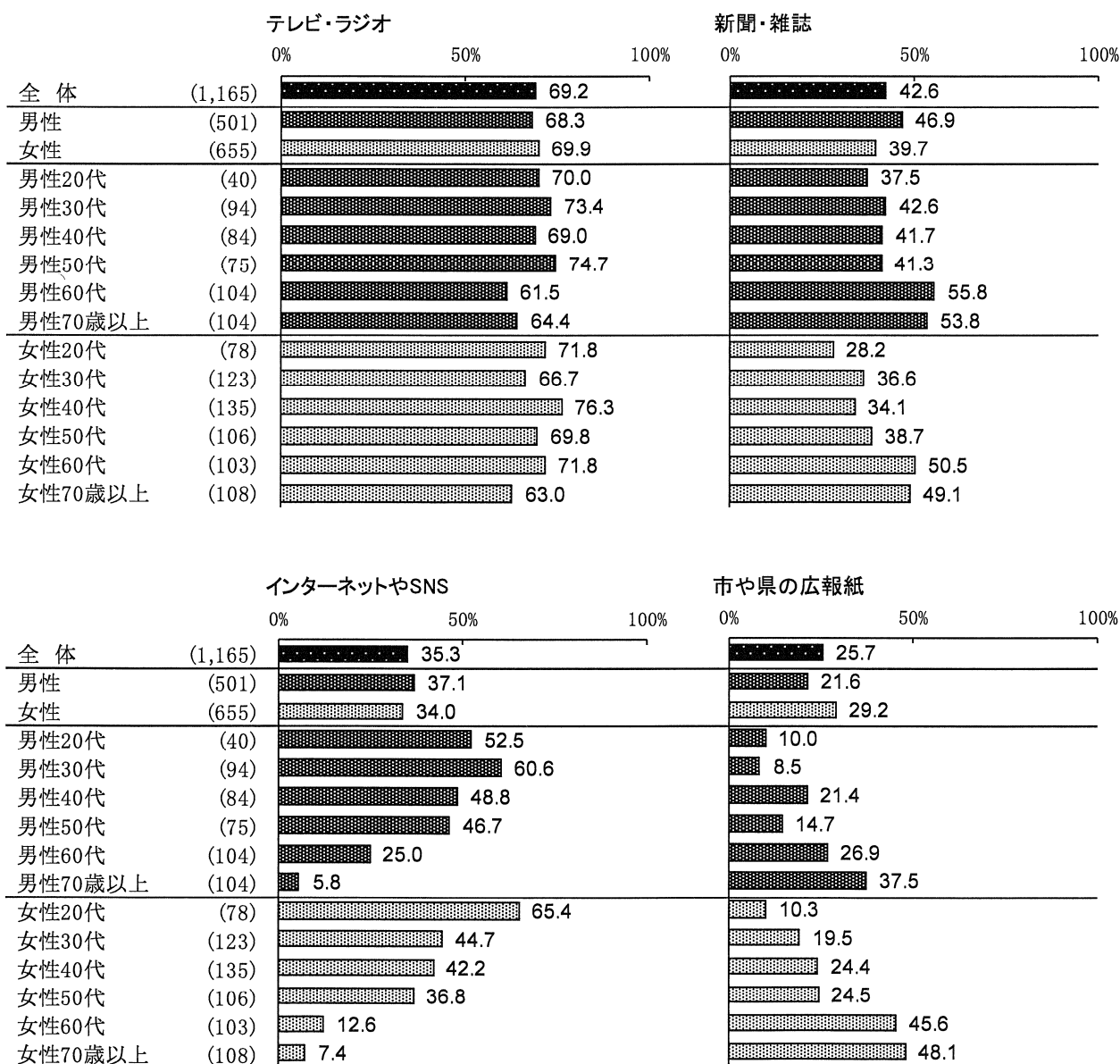
全体 人権について理解を深める上で役立つと思う方法については、「ラジオ・テレビ」が69.2%で最も多く、次いで「新聞・雑誌」(42.6%)、「インターネットやSNS」(35.3%)と続いている。

過去の調査と比較すると、「テレビ・ラジオ」は、61.7%から62.2%、69.2%と増加し、「インターネットやSNS」も16.5%から22.0%、35.3%と増加している。一方、「新聞・雑誌」は、前回平成22(2010)年の51.7%から42.6%に減少し、「映画・ビデオ」も前回の20.9%から11.0%へと減少している。

性別 「新聞・雑誌」が、女性の39.7%に対して、男性は46.9%と7.2ポイント多く、「インターネットやSNS」も、女性の34.0%に対して、男性は37.1%と3.1ポイントほど多くなっている。一方、「市や県の広報紙」は、男性の21.6%に対して、女性は29.2%と7.6ポイント多くなっている。

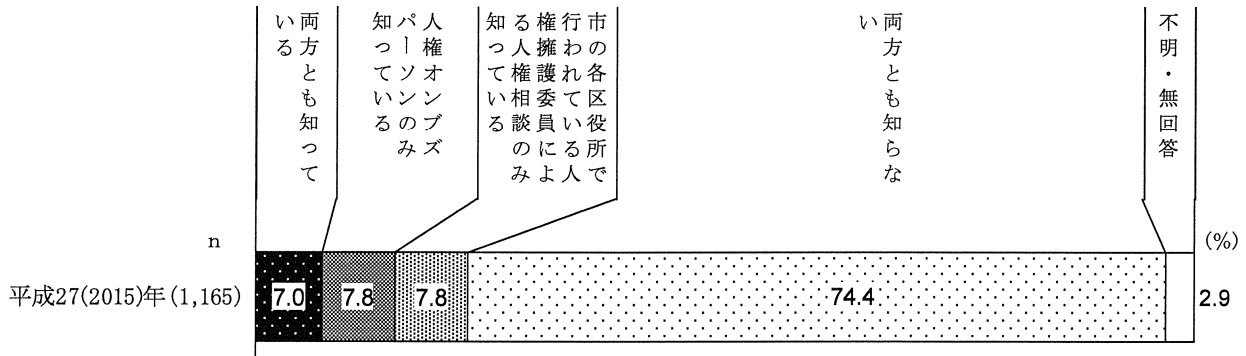
性・年代別 「新聞・雑誌」と「市や県の広報紙」は、男女とも年代が上がるにつれて多くなる傾向が見られる。一方、「インターネットやSNS」は、男女とも年代が下がるにつれて多くなる傾向が見られ、特に女性20代では65.4%と、他の性・年代と比べて最も多くなっている。

図 16-1 人権への理解に必要なだと思う方法【上位4位】(性別、性・年代別)



(2) 人権相談窓口の認知度

問 26 あなたは、川崎市が、子どもの権利の侵害や男女平等に関わる人権侵害についての相談・救済を行う人権オンブズパーソンや、市の各区役所で行われている人権擁護委員による人権相談を知っていますか。(〇は1つ)



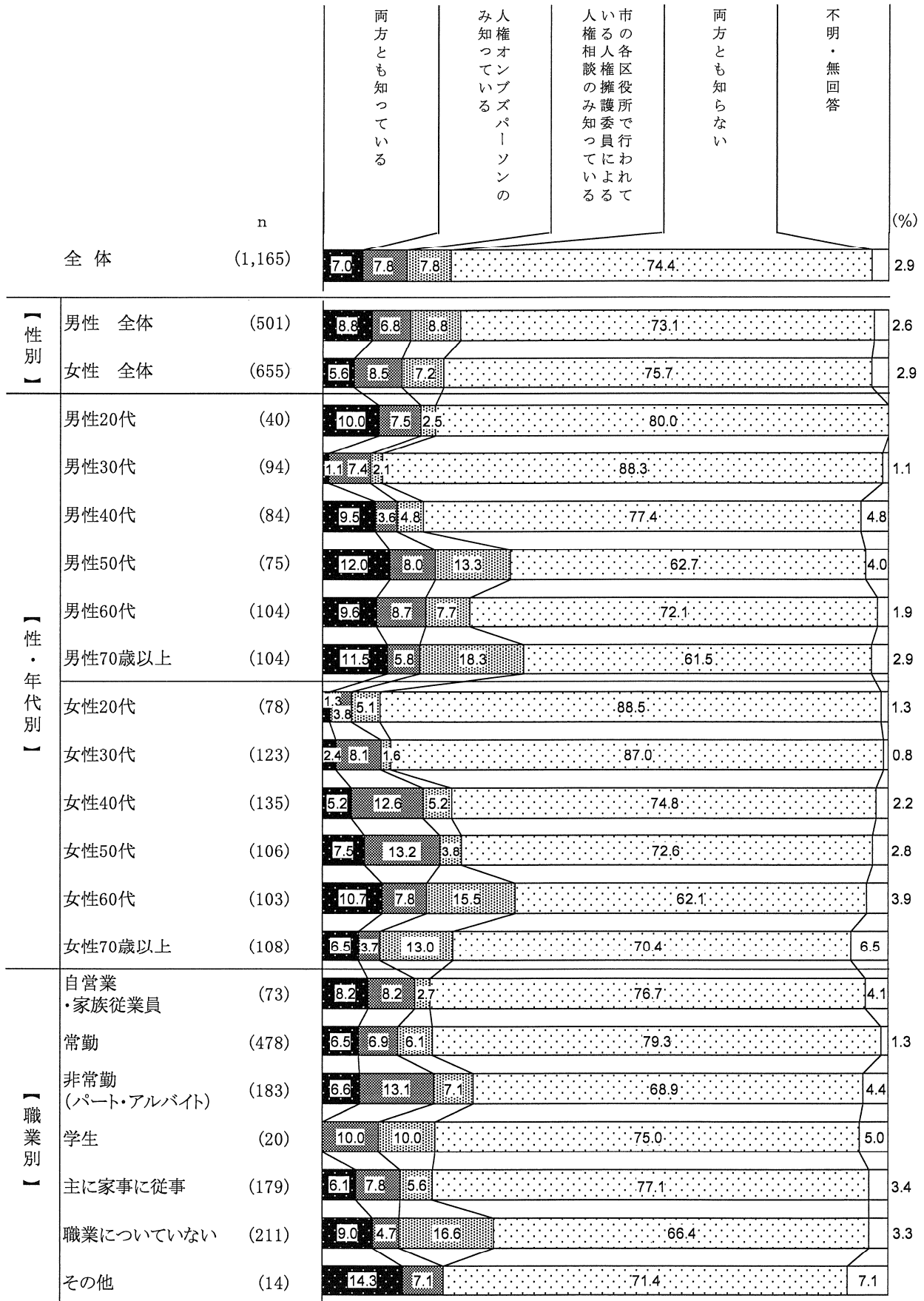
全体 「人権オンブズパーソン」や「人権擁護委員による人権相談」についての認知度は、「両方とも知らない」が74.4%で最も多く、次いで「人権オンブズパーソンのみ知っている」と「市の各区役所で行われている人権擁護委員による人権相談のみ知っている」がともに7.8%、「両方とも知っている」は7.0%となっている。

性別 「両方とも知っている」は、女性(5.6%)より男性(8.8%)のほうが、2.2ポイントほど多くなっている。

性・年代別 男女とも20代・30代では、「両方とも知らない」の割合が80%を超え、特に多くなっている。一方、「両方とも知っている」は、男性20代・50代・70歳以上と女性60代でそれぞれ10%台と多くなっている。「人権オンブズパーソンのみ知っている」は、女性40代・50代で12.6%と13.2%、「市の各区役所で行われている人権擁護委員による人権相談のみ知っている」は、男性50代・70歳以上で13.3%、18.3%と、女性60代・70歳以上で15.5%、13.0%となり、多い傾向が見られる。

職業別 職業についていない人は「市の各区役所で行われている人権擁護委員による人権相談のみ知っている」が16.6%で、他の職業よりも多く、非常勤(パート・アルバイト)は「人権オンブズパーソンのみ知っている」が13.1%で、他の職業よりも多くなっている。

図 16-2 人権相談窓口の認知度（性別、性・年代別、職業別）



※属性が「不明・無回答」は作図せず
 ※n数が「20未満」の属性についてはコメントせず

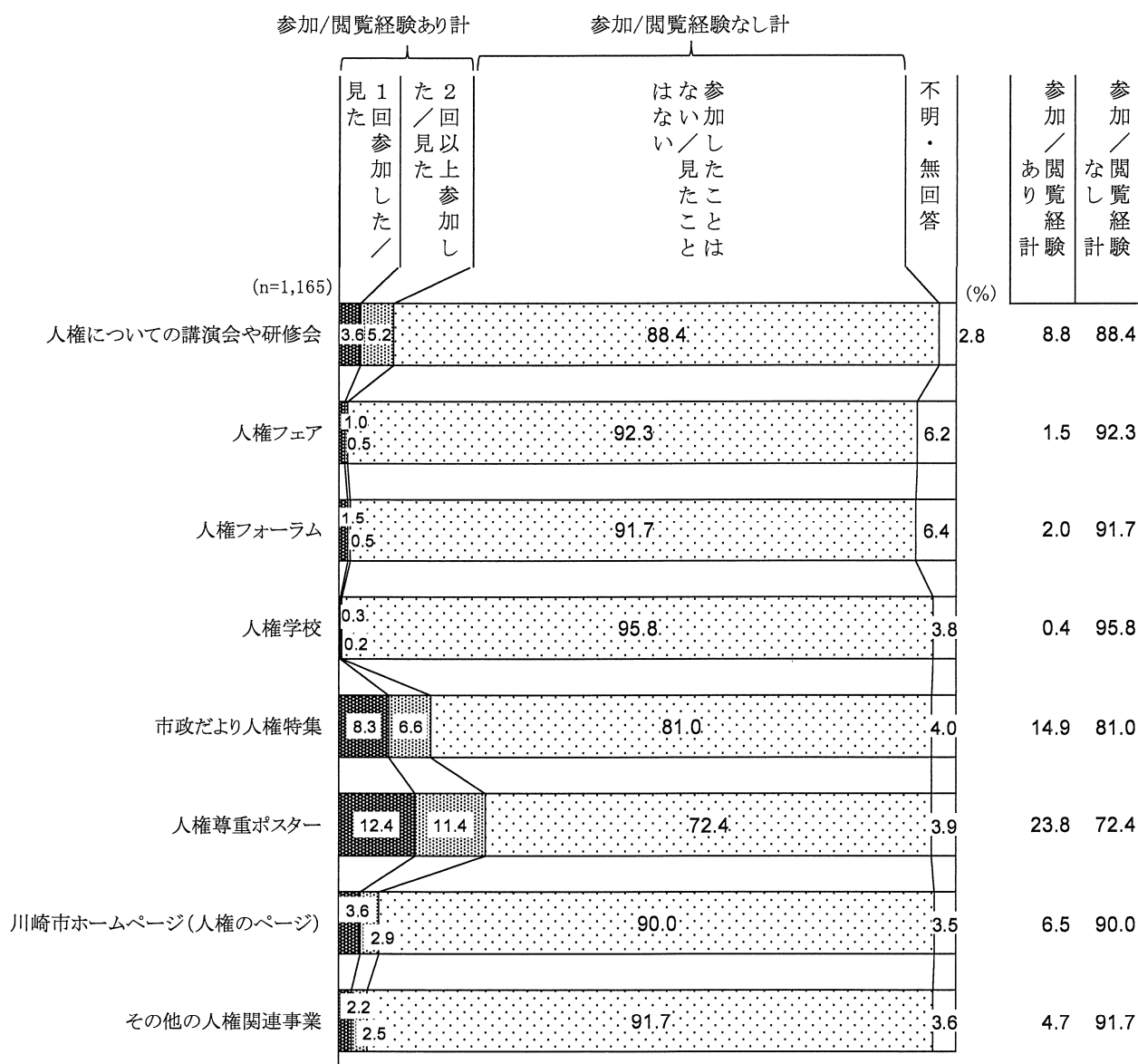
17. 人権関連事業への参加状況と人権への理解について

(1) 人権関連事業への参加状況

問 27 あなたは、人権についての講演会や研修会に参加したことがありますか。

問 29-1~7 あなたは、川崎市が行っている人権関連事業に参加したことや見たことがありますか。

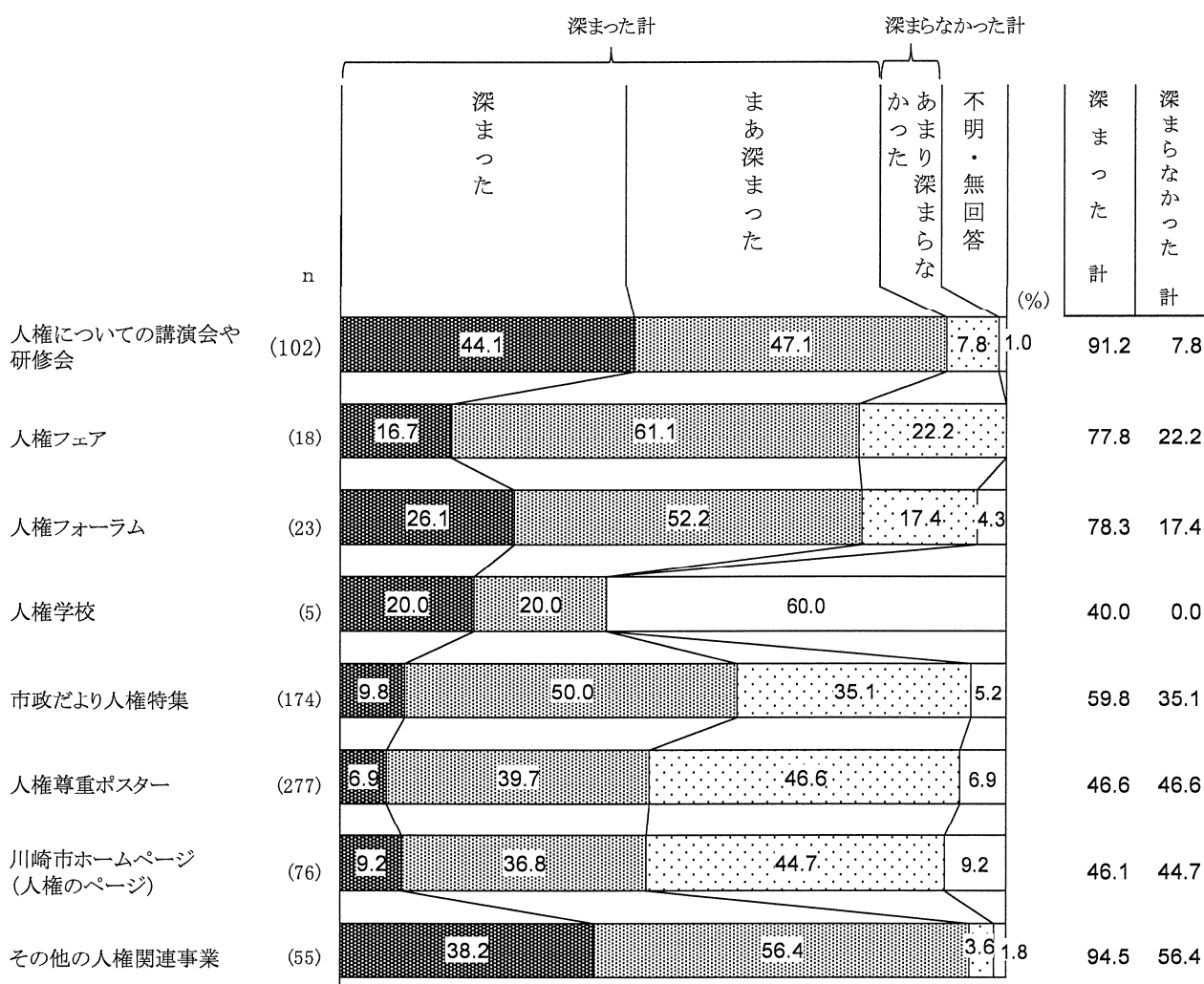
(○は1つ)



人権についての講演会や研修会、川崎市が行っている人権関連事業への参加状況および閲覧状況についてみると、『人権尊重ポスター』は、「1回見た」が12.4%、「2回以上見た」が11.4%となっており、「1回見た」と「2回以上見た」をあわせた閲覧経験あり計で23.8%となり、最も多くなっている。次いで多いのは『市政だより人権特集』で、「1回見た」が8.3%、「2回以上見た」が6.6%となっており、「1回見た」と「2回以上見た」をあわせた閲覧経験あり計は14.9%となっている。

(2) 人権関連事業への参加と人権への理解

(問 27～問 29-7 で「1. 1回参加した／見た」「2. 2回以上参加した／見た」とお答えの方に)
参加して／見て、人権について理解は深まりましたか。(○は1つ)



人権についての講演会や研修会・人権関連事業へ参加したことや閲覧したことで、人権について理解が深まったかという点について、『人権についての講演会や研修会』に参加した人では、「深まった」が44.1%、「まあ深まった」が47.1%となっており、「深まった」と「まあ深まった」の合計は91.2%となっている。

川崎市が行っている人権関連事業に参加した、あるいは閲覧したもののなかで、『その他の人権関連事業』に接触した人では、「深まった」が38.2%、「まあ深まった」が56.4%となっており、「深まった」と「まあ深まった」の合計は94.5%と、全項目のなかで最も多くなっている。